



NPO PTPL “ともいき” 便り No.135

平成 29 年（2017 年）11 月 22 日発行

■小雪（しょうせつ） 11 月 22 日から 12 月 6 日までの節気

「小雪」の節気です。

本格的な冬はまだですが、北日本や山沿いの地方には、わずかながら雪が降ります。まさに小さな雪ですね。紅葉黄葉も終わった山は眠りに入ったようです。シベリアから白鳥が渡ってきて、冬将軍もそろそろやってくるころです。

都心でも、イチョウが黄色く色づきはじめました。都内各所のイチョウ並木にも多くの人々で賑わいそうです。

11 月 23 日(木)は国民の祝日「勤労感謝の日」です。この祝日は 1948 年に「勤労をたつとび、生産を祝い、国民がたがいに感謝しあう」を趣旨として制定されました。

制定前までは「新嘗祭」として日本人には親しまれていました。

現在「新嘗祭」は皇居で執り行われています。簡単に説明すると、天皇陛下自らがお手植えされ、育てられた、その年の新穀の収穫を神様に感謝し、新穀を奉ると共に天皇陛下自らが召し上がる儀式です。

明治天皇の玄孫で、作家の武田恒康氏が自身のネットチャンネルなどで「新嘗祭と新米の解禁」についての発言が賛否を呼んでいます。

竹田氏は、いまや日本が世界で一番早い解禁を迎えるボジョレ・ヌーボーがお祭り騒ぎになることに対し、新嘗祭の意味からも新米の解禁は新嘗祭の翌日である 11 月 24 日ということが問われてもいいのではないかということをお願いしています。

「彼曰く、天皇陛下が新米を召される前に、平民が口にするのは恐れおおいと・・・。

皇室を貴ぶ彼の立場、系譜から考えると最もという感じもしますが、彼はこう

も言っています。

11月24日はあまりにも遅く、流通事情等を考えると、せめて伊勢神宮で催される「神嘗祭」の翌日の10月18日にしたらよいのではないかと・・・。

日本人はボジョレ・ヌーボーにも見られるように解禁を国民的なイベントにまで大きくする国民性があるようです。

つまり、流通などと連携して10月18日を新米の解禁、例えば「ライス・ヌーボー」(注：ネーミングは当NPO PTPL理事長の発想)などと称して、イベントに仕立てるのは面白い発想ではないかと思えます。

要は、瑞穂の国の日本といわれるように、新米解禁を全国的なイベント仕立てすることで「日本人の五穀豊穰に対する神様への感謝の気持ち」が高まればよいのではないのでしょうか。

11月24日は「和食の日」です。

2013年12月にユネスコの無形文化遺産に「和食：日本人の伝統的食文化」が登録されることとなったことを受け、日本人の伝統的な食文化について見直し、和食文化の保護・継承の大切さについて考える日として、一般社団法人和食文化国民会議が2013年から11月24日を「和食の日」として制定しました。

11月24日この日の夕食は、新米と和食のおかずで、と決めるのも一考かと思えます。

「小雪」の節気には、ほかにも稲に関する行事があります。それが「十日夜(とおかんや)」です。

「十日夜」は、その年の収穫が終わったことを意味し、稲の収穫に感謝し、翌年の豊作を祈って他の神に餅や牡丹餅をお供えします。「十日夜」は「中秋の名月」「十三夜」と並び称され「三月見」または、「三の月」とも呼ばれています。

今回は稲に因んだお話しでまとめてみました。

いよいよ寒さが厳しくなります。皆さまくれぐれも身体ご自愛ください。

佐藤 誠 (NPO PLANT A TREE PLANT LOVE事務局)

■ともいき・ともうみ・ともさち、そして和。それは日本的なるもの「ジャパネスク」

「ギリシャ神話」「聖書」と「古事記」「日本書紀」の違い。

幸いなことに、いまの世界の人々の関心が少しずつ日本にむけられているようです。「何かいいことありそうな、行ってみたい日本へ。」と感じ始めているのでしょうか。その関心に応えるために、かろうじて現在の日本人にも残っている日本人の人生観、自然観、生命観と日本の価値観、倫理観、宗教観などを伝えていきたいと考えています。(NPO PTPL がジャパネスク運動です。)

日本を「ワンダーランド」と価値づけ、「もっと知りたい日本」と呼びかけること。これまで日本そのものの魅力と特長を正しく総合的にPRする文化的プロジェクトがあったでしょうか。国際化が進み、西洋が近づきつつある今だからこそ検討に値するものと考えます。日本を知る、これは「国民的テーマ」だと言えます。

「ギリシャ神話」や「聖書」では、最初から神が登場してきて、神が自然を産み、人を創るのに、「古事記」「日本書紀」では神より先に自然状態があるので。自然そのものがエネルギーをもって何かをつくり出していく、そして神が生まれ、人が生まれたのです。これが日本人と西洋人の世界観が根本的に違っている部分です。

日本に魅力を感じ始めている世界の人々はまだ少数ですが、この違いを感じ始めているのではないのでしょうか?!!

※「ジャパネスク」サイトメニューの「ジャパネスク語り」もお読みください。そして投稿やコメントをぜひお寄せください。お待ちしております。

「HEAVENESE」のマレさんに!!

NPO PTPL 会員である N さんご夫妻と久しぶりにお会いし、日常生活の中での「日本の話」(ジャパネスク)について彼是と……。とても楽しい時間でした。N さんの意見では「ヘブニーズ」に、日本人にも外国人にも訴える「ジャパネスク」の力強いメッセージソングを歌って欲しいものです。鼓や三味線、篠笛や尺八などの和の音に調和して、バイオリンやギターなどの洋の音が融和してできるサウンド、「ともうみ」の精神でつくられる次の時代が見えてくるような歌を思い描いているようでした。

「無いものねだり」的な感じもしましたが、NPO PTPL の会員の皆さんも「マレ

さん」に期待しています。もちろん私も大きな期待をしています!!



勝田 祥三 (NPO PLANT A TREE PLANT LOVE 理事長)

■事務局便り

●是非、NPO PTPL が企画制作運営するサイト・FB をご覧ください。

「NPO PTPL 公式ホームページ」 : <http://www.plantatree.gr.jp/>

「ジャパネスク」 : <http://www.japanesque.tokyo/>

「ともいき暦」 : <http://www.tomoiki.ptpl.or.jp/calendar/2016/>

「ともいき ぐらし」 : <https://www.facebook.com/tomoikigurashi>

「おらが富士 計画 ふるさと富士山探し」

<https://www.facebook.com/oragafuji/>

「不思議・驚き・魅力のジャパネスク」

<https://www.facebook.com/japanesque.tokyo/>

●会員募集のご案内

NPO 活動 (ジャパネスク運動) を推進していくためには、多くの皆さま方のご支援・ご協力が不可欠です。

NPO PTPL では、常時、個人会員と法人会員を募集しています。この便りをお読みの方で、ご本人またはお知り合いの方々にご案内いただければ幸いです。お力添えのほど、どうぞよろしく申し上げます。

詳しくは下記まで、メールまたはお電話・FAX にてお尋ねください。

NPO PLANT A TREE PALNT LOVE 事務局

〒141-0022 東京都品川区東五反田 2-7-11 東都ビル 201 号

電話 : 03-6432-5911 FAX : 03-6432-5912

Email : info@ptpl.or.jp